

NEWS LETTER

全国初！最新の子宮頸がん検査機器を導入*1 県民の方々の子宮頸がん検診 より高い精度管理で安心を

2013年4月9日

公益財団法人愛媛県総合保健協会

愛媛県下で公衆衛生の普及・啓発、疾病予防の健診・検査の総合サービスを提供する公益財団法人愛媛県総合保健協会（愛媛県松山市、理事長久野梧郎）は、子宮頸がん検診に「細胞診検査」と「HPV検査」の最新機器*2を導入しました。公益財団法人日本対がん協会の支部団体として、「HPV検査」機器の自施設内導入は全国初となります。本年4月より、新しい検査方法で県下の子宮頸がん検診を展開し、各自治体から検査受託可能な体制が整いました。

子宮頸がん検診の細胞診検査に HPV 検査を加えることで、子宮頸がん検診の精度が上がることを期待されています。今回、愛媛県総合保健協会が「HPV 検査」の最新機器を自施設内に導入したことにより、一度の検体採取で「細胞診検査」と「HPV 検査」を同時に行うことが可能となり、また、各市町村にとってはこれまでの「細胞診検査」に加え「HPV 検査」の採用がより広く可能になることで、今後、地域の子宮頸がん予防が一層進むことが期待できます。

今回の検査機器導入による県民の方々へのメリットは以下の通りです。

- 細胞診標本作製後の残り細胞検体で HPV 検査が可能のため、「細胞診検査」の結果、再検査となり「HPV 検査」を行う場合でも、もう一度検査機関を受診する必要がなくなる
- HPV 検査の外部委託が不要となったため、自施設内での一貫したシステムで管理精度が向上
- 検査結果報告までの日数短縮
（これまでは細胞診検査の結果に約3週間、そして HPV 検査が必要な場合には医療機関にて再受診していただき、結果の通知までに約1週間が必要でしたが、今後はこの日数が短縮できます）

本機器の導入に関して、愛媛県産婦人科医会会長池谷東彦先生は次のように述べています。

「平成25年度より厚生労働省によって HPV 検査の対策型検診における最適な実施方法についての研究が進められることになっています。愛媛県では、いち早く HPV 検査実施の体制を整えました。自治体や関係協力機関そして地域の方々と協力し合い、精度の高い検診を効率的に実施して参りたいと考えています。」

愛媛県総合保健協会は、これまでも全国に先駆けて LBC*3（液状化検体細胞診:Liquid Based Cytology）やベセスダシステム*4の導入を進め、より精度の高い検診サービスを提供してまいりました。今回の新システムの導入により、県民の方々により信頼できる正確な子宮頸がん検診サービスを提供し、愛媛県の子宮頸がん撲滅に貢献いたします。

*1 全国の財団法人日本対がん協会グループ提携団体の中で、「HPV 検査」専用機器自施設内導入は全国初

*2 2013年3月現在

*3 LBC（液状化検体細胞診:Liquid Based Cytology）：後述の「3. LBC（液状化検体細胞診）について」をご参照ください

*4 ベセスダシステム：ベセスダシステム 2001 準拠子宮頸部細胞診報告様式

<ご取材・報道関係者お問い合わせ先>

公益財団法人愛媛県総合保健協会 健康増進部 佐伯・深田

Tel : 089-987-8207 Fax : 089-913-7132

<検査製品に関するお問い合わせ先>

ホロジックジャパン株式会社 マーケティング・臨床開発 多田

Tel : 03-3556-9960 Fax : 03-3556-9980

株式会社ブラップジャパン（ホロジックジャパン広報代行）コミュニケーションサービス本部 5部 宮坂・藤田

Tel : 03-4580-9105 Fax : 03-4580-9131

<ご参考資料>

1. HPV 検査とは

子宮頸がんの原因となる HPV（ヒトパピローマウイルス：Human Papillomavirus）に感染しているかどうかを調べる検査です。子宮頸がん患者の 90%以上が感染している^{*1-1}といわれる HPV は、性交渉により感染するごくありふれたウイルスで、感染率は 10~15%^{*1-2}とされています。ほとんどの場合は自然治癒しますが、感染が継続し子宮頸部に異形成が見られた女性の一部では、子宮頸がんに行進することが知られています。

HPV に感染しても子宮頸がんを発症する割合はごくわずかで、しかも感染から発症するまで通常数年から数十年かかることから、定期的な子宮頸がん検診が子宮頸がんを撲滅する有効な手段とされています。子宮頸がん検診の検査としては子宮頸部細胞診検査があり、細胞診検査を LBC に変更することや、HPV 検査を加えることで、子宮頸がん検診の精度が上がるのが期待されています。当協会では、HPV 検査の正確性を図るため検査機器として Cervista（以下、サービスタ）HPV HR^{*1-3} [ホロジック社製]の専用機器を導入しました。

*1-1 （独）国立がん研究センター・がん対策情報センター http://ganjoho.jp/public/cancer/cervix_uteri/index.html

*1-2 日本細胞診断学推進協会 子宮頸がん検診とヒトパピローマウイルス

*1-3 後述の「4.検査製品について」をご参照ください。

2. 子宮頸がんは防ぐことが出来る病気です

愛媛県総合保健協会では、地域の子宮頸がん検診を 1969 年より実施しており、現在までに 155 万人の検診を実施してきました（2012 年 3 月時点）。そのうち 1,744 名の子宮頸がんを発見しており、愛媛県内の子宮頸がん検診の受診率は約 20%です。

子宮頸がんは「予防できるがん」であり、異形成と呼ばれる前がん病変の状態で見つけることで、妊娠・出産の機能を残したまま治療することが可能です。これまでに 1,511 名の異形成を発見しています。一人でも多くのがんを発見するため、初回受診者の掘り起し、情報の発信と啓発が不可欠です。

3. LBC（液状化検体細胞診）とは

LBC（液状化検体細胞診：Liquid Based Cytology）は、子宮頸がん検査のために採取された細胞を固定保存液に集め、専用の装置で標本作製する方法です。従来からの細胞診は、医師が綿棒やブラシ、特殊なヘラ等を用いて細胞をぬぐい取り、スライドガラスに直接塗抹する方法で行われてきました。従来の綿棒で採取する方法では、約 80%の細胞が廃棄されると言われています^{*4-1}。LBC では、採取された細胞を細胞保存液に保存後、専用装置により標本作製するため、採取者の採取技能に影響されず一定の検査標本ができます。当協会では ThinPrep（以下、シンプレップ）^{*4-2} [ホロジック社製]機器を導入しました。



*4-1 「子宮頸部から擦過採取される細胞数とスライド標本に塗抹される細胞数」日本臨床細胞学会雑誌 33(3), 463-467, 1994-05

*4-2 後述の「4.検査製品について」をご参照ください。

4. 検査製品について

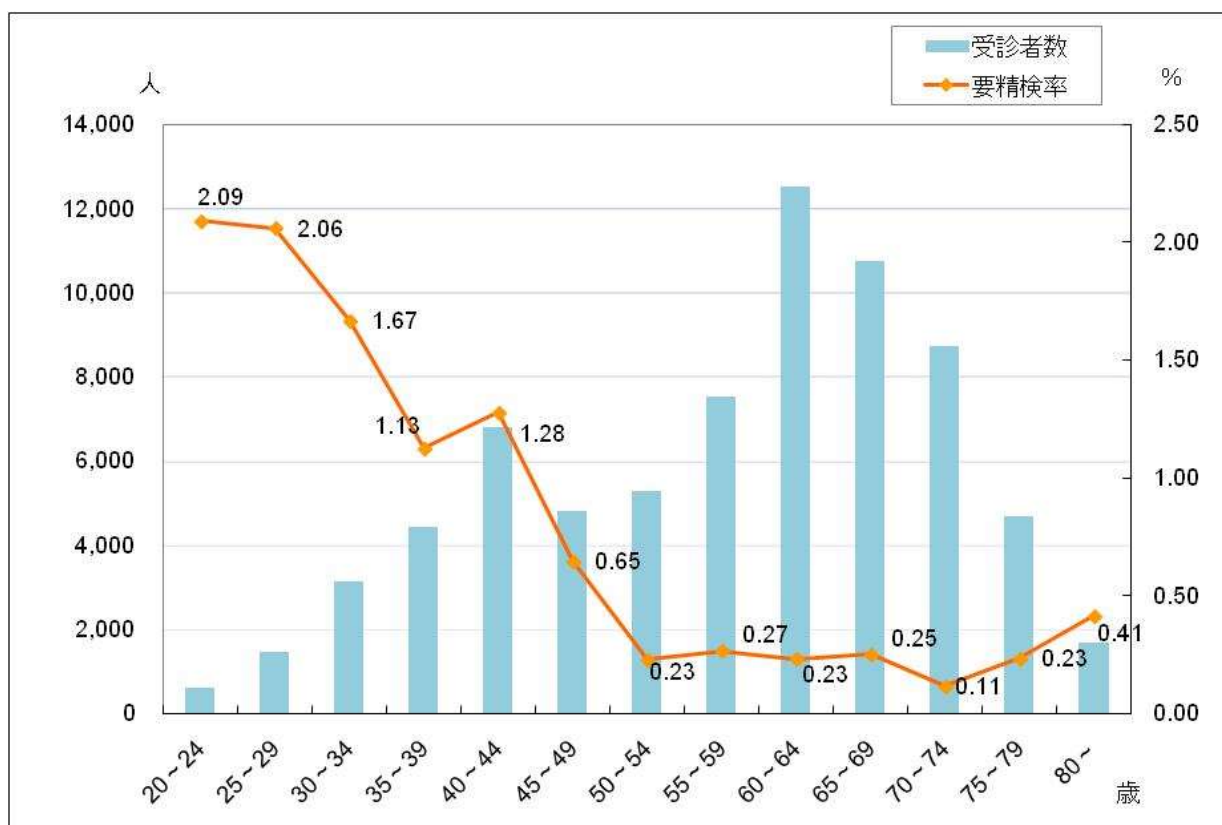
- 液状化検体細胞診「シンプレップ」：子宮頸部細胞診の手法として 1996 年に最初の米国 FDA（食品医薬品局）の承認を受け、現在では米国のみならず欧州やアジア地区で広く普及している代表的な液状化検体細胞診（LBC）製品です。独自に開発された特許技術により、完全に標準化された高品質な標本作製が可能です。さらに、固定液に保存した残りの検体で HPV 検査を行うことが可能なため、患者さんの負担を軽減することができます。
- HPV 検査「サービスタ HPV HR」：ヒトパピローマウイルス DNA 検出キットで、HPV ウィルスのうち子宮頸がんの原因となるハイリスク型の 14 種類の HPV を検出する検査試薬です。ホロジック社が保有するインバーダー法を応用し、偽陰性、偽陽性を最小限に抑える工夫がされています。

《地域検診における 2009～2011 年度の受診状況》

愛媛県地域検診における過去 3 年間の子宮頸がん検診状況をグラフに示します。

受診総数 72,433 名のうち、初回受診は 14,472 名で 20%の割合でした。全国的傾向と同様に若年層の受診率が低いと言えます（図棒グラフ）。

要精検者は 379 名で要精検率は約 0.5%でしたが、30 歳未満の若年層においては要精検者 43 名、要精検率は約 2%と全体の約 4 倍を示しています（図折れ線）。このうち、29 名に異形成がみつかり、その内の多くに HPV 感染を疑う異型細胞も認められました。また、発見がんは 90 名で、がん発見率 0.12%でしたが、30 歳未満の若年層においては 6 名のがんを発見、がん発見率は 0.78%で全体の約 6 倍でした（図表無し）。愛媛県においても、若年層で子宮頸がんの罹患、死亡が増加しているという全国的傾向を反映しており、若年層の受診率の向上を図ることが急務と考えています。



より精度の高い子宮頸がん検診のために

国は若年層に HPV 感染が高率に認められることから、30 歳からの HPV 併用検診の導入を検討しています。30 歳未満に対しては、細胞診の単独検診が望ましいとされています。愛媛県では、既に導入している LBC（液状化検体細胞診）および今回の HPV 検査機器導入により、どちらの年齢層にもより精度の高い子宮頸がん検診を提供できるようになりました。定期的な子宮頸がん検診で確実に子宮頸がんを早期発見し、がん死亡率が低下するように、検査精度の向上と効率化を進めていきます。

〔公益財団法人愛媛県総合保健協会〕

当協会は、1998 年 4 月に結核予防会愛媛県支部・予防医学協会及びがん予防協会の 3 団体が合併し、「県民の健康保持増進と福祉の向上」を基本理念としています。2013 年 4 月 1 日に公益財団法人への移行認定を受け、組織体制の強化を図りつつ公衆衛生に関する正しい知識の普及・啓発に努め、生活習慣病を起因とする各種疾病予防のための健診・検査及び生活環境の保全に関する総合的サービスを提供しています。

〔ホロジックジャパン株式会社〕

ホロジックジャパンは、婦人科領域の疾患の診断・医療機器の開発に永年注力してきた米国ホロジック社の日本法人企業です。企業ビジョンに『すべての女性に、世界基準の「安心」と「ケア」を』を掲げています。現代の女性たちに世界基準の「安心」と「ケア」を届けるために、「子宮頸がん」や「乳がん」「骨粗しょう症」など、女性の様々なライフステージで起こりうる疾患に関連した医療機器、診断用医薬品の開発、製造、販売を行っています。